

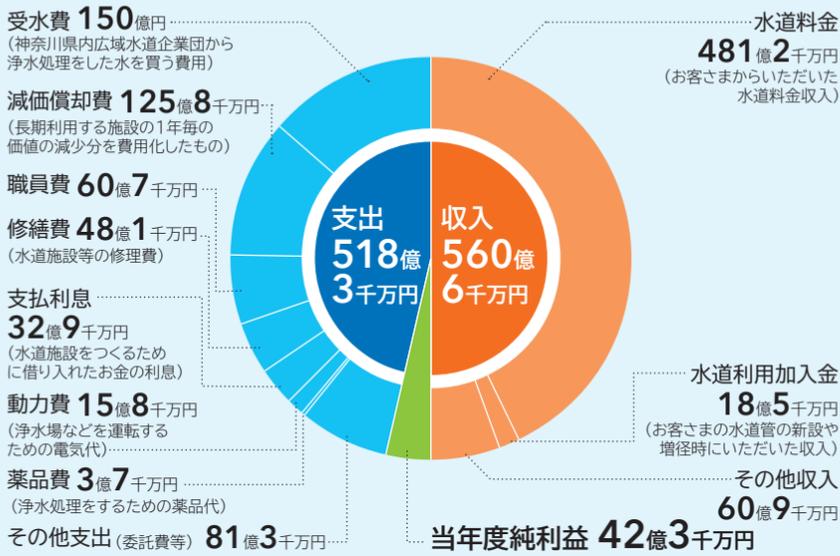
平成27年度決算のご報告

平成27年度の神奈川県水道事業の収支状況は、うるう年や料金減免制度の見直し等により水道料金が増収となったほか、企業債残高の減少に努めるなどの様々なコスト削減を行った結果、黒字を確保することができました。

収益的収支

※ グラフ内の額はすべて税抜き

水道水をつくり、ご家庭にお届けするための経費とその財源



■ 収益的支出

518億3千万円 (前年度比86.1%)
 企業債残高の減少により支払利息が減少したことや、前年度は地方公営企業会計制度の見直しに伴う特別損失を計上していたことから、前年度と比較して約83億9,577万円の減少となりました。

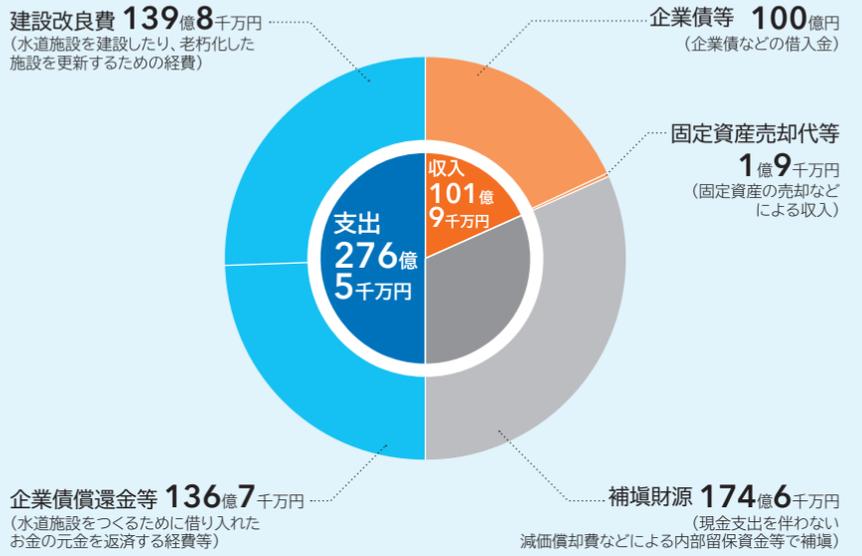
■ 収益的収入

560億6千万円 (前年度比94.3%)
 収入の大部分を占める水道料金収入は、増収となりましたが、前年度は地方公営企業会計制度の見直しに伴う特別利益を計上していたため、前年度と比較して約33億5,715万円の減少となりました。

資本的収支

※ グラフ内の額はすべて税抜き

水道施設をつくるために要する経費とその財源



■ 資本的支出

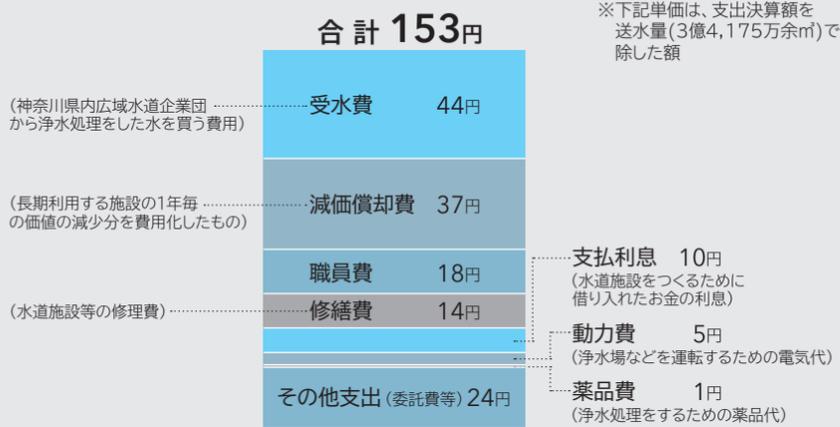
276億5千万円 (前年度比119.6%)
 「災害に強い水道づくり」や「より安全でおいしい水の供給」に向けて、老朽管の取り替えや、水道管の耐震化を進めました。

■ 資本的収入

101億9千万円 (前年度比141.8%)
 地震等の災害対策や老朽管更新等の事業を実施するにあたり、財源として企業債の借入などを行いました。

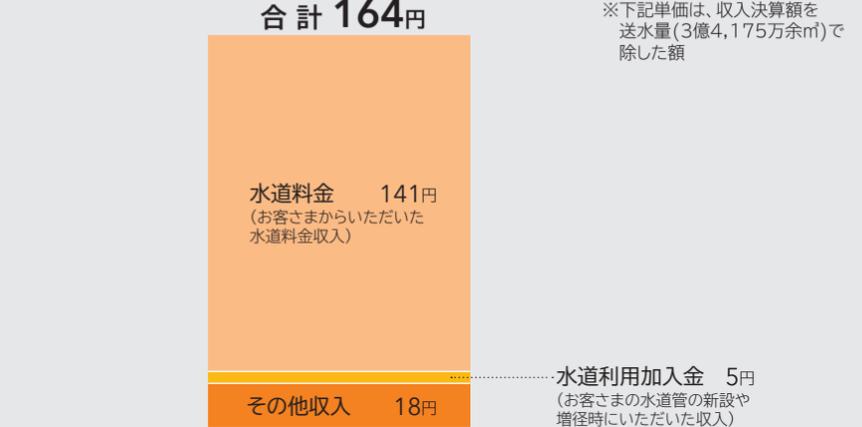
参考 1m³の水道水に係る費用の内訳 (円)

※グラフ内の額はすべて税抜き
 ※下記単価は、支出決算額を送水量(3億4,175万余m³)で除した額



参考 水道水1m³あたりの収入の内訳 (円)

※グラフ内の額はすべて税抜き
 ※下記単価は、収入決算額を送水量(3億4,175万余m³)で除した額



掘り進めながら、水道管を布設する工事を行うことで、道路の掘削を最小限に抑えています。
 こうした工事には、長い期間と多くの費用がかかりますが、大規模地震などの災害に備えて、しっかり取り組んでいきます。

水道施設の耐震化①
 水道管の耐震化工事
 浄水場と配水池を結ぶ水道管や口径の大きい水道管は、地震などの災害時に破損してしまうと断水が広範囲に及びます。そこで、被災による影響が大きい水道管を優先して、東日本大震災などの大規模地震でも被害がなかった、耐震管への取替工事を進めています。
 工事を行う際には、お客さまの生活に支障がないように、工事期間中の水道水の供給ルートを変更したり、道路交通へ配慮するなど、現場の状況に応じた工法を採用しています。
 例えば、推進工法という特殊な技術で地中を掘り進めながら、水道管を布設する工事を行うことで、道路の掘削を最小限に抑えています。

22世紀につなぐ
 インフラをめざして
水道
100歳
時代



▲写真：水道管をうる様子（昭和初期、湘南地方）